

■牧之原市子ども読書活動推進計画(案)パブリックコメント 意見・回答一覧

No.	意見番号	項目	意見	回答	計画への反映	関連ページ
1	1	1 第2章 5-(3) 図書館資料の充実	私自身が今、通信で大学にかよっており、授業で専門図書を読みなさいと言う内容の講義が多々あります。今後の子どもたちのためにもできたら、もう少し専門図書を置いていただけたら嬉しいな…と思います。	子どもたちのための図書館資料の充実については、「子ども読書意欲や興味を高めたり、図書館を活用した調べ学習の参考となるよう資料の充実を進めます。」としていますので、その中で必要な専門図書も充実を図っていきます。大人も含めた専門図書の充実については、図書館全体の計画である「図書館基本計画」の中で位置付けを検討していきます。	なし	P16
2	1	全体	「知らせる」という表記が、強く押し付ける感じがしますので、例えば「広くお伝えする」など柔らかな表現の方が良いかと思えます。	「知らせる」は「知らせる」の文語的表現なので誤りではありません、イメージ及びわかりやすさが大切でありますので「伝える」「広く伝える」に変更します。	あり	P11 P17 P44
3	2	第2章 5 図書館における子ども読書活動	第三の居場所(サードプレイス)の「サードプレイス」の表記は必要でしょうか。日本語で十分意味が伝わる言葉があれば、あえてカタカナ表記は必要ないのではと思います。	「第3の居場所」も「サードプレイス」も同じ意味ですが、どちらも一般的な用語として認知されていますので、敢えて同義語として丁寧に表記しています。P43の「サードプレイス」はP15の表現と統一し「第3の居場所(サードプレイス)」とします。	あり	P15 P43
4	2	3 第2章 5-(3) 図書館資料の充実 多様な利用者への配慮	「アクセシブル」は、「…利用しやすい資料…」などの表現でどうでしょうか。誰もが知っているカタカナ表記であれば問題ないと思いますが、聞き慣れないカタカナ表記は読み手の思考が止まり、読みづらくなるのではと思います。	県の子どもの読書活動推進計画と同じ表現にしていますが、「障がい者も利用できるアクセシブルな資料」を「障がい者でも利用しやすいアクセシブルな資料」とわかりやすい表現に変更します。	あり	P17
5	4	第2章 5-(3) 図書館資料の充実 多様な利用者への配慮	「りんごの棚」は、注釈をつけた方がいいと思います。福祉に携わっている方や図書館職員であれば知っているかと思いますが、一般にはあまり普及していない言葉かと思えます。	注釈による説明を付します。	あり	P17
6	1	第2章 5-(1) 利用しやすく居心地の良い図書館 利用しやすい図書館運営	図書館の開館時間を早くして欲しい。	本計画では「大人も含めて多様な市民が利用しやすい図書館運営をし、利用者増を図ります。」としています。開館時間の変更は、図書館全体の計画である「図書館基本計画」の中で図書館協議会の意見を聞きながら検討していきます。	なし	P16
7	2	第2章 3-(2) 読書活動及び学校図書館を活用した学習活動の充実 学校図書館の資料の充実	中学校の図書室に絵本の数を増やして欲しい。理由は活字が苦手な生徒もいます。絵本を数冊でなく多く置く事で中学生でも絵本を読んでいいし、苦手意識を減らし、本との関わりを無くしてしまわない工夫の1つかなと思う。	計画では「子どものニーズに合った学校図書館」としています。多様な子どもへの対応は子ども読書推進に必要ですので、資料の選書の際には考慮してまいります。	なし	P13
8	1	第1章 3-(1) ありたい姿(将来像)	基本理念は、大変良いワードだと思いました。	明確な将来像を示し、今後はそれらを達成するよう事業の推進をしてまいります。	なし	P5

No.	意見番号	項目	意見	回答	計画への反映	関連ページ
9	2	第2章 3-(1) 学校図書館の環境整備 学校司書の配置	学校司書の配置は、ずっと願っています、一人一校担当は再編までかなわないとあきらめています。どうしても司書不在日がありますと、返却漏れ、書架の乱れやPCを児童と共有している事で問題が発生します。司書教諭も1日の終わりにPCの確認もできないくらいの忙しさです。	学校司書の配置は、文部科学省の学校図書館図書整備5か年計画に基づき配置をしております。 本計画では、学校司書の配置・促進も含め「学校図書館の機能の充実を図っていきます」としているため、学校再編も見越しながら、効率的・効果的に運営できるよう検討していきます。	なし	P13
10	3	第2章 3-(3) 図書館施設見学などの実施、図書館との連携 学校貸出の運用	資料の充実に関しては、予算に限りがあります。学校貸出をしていただく際、資料の選書などに時間を有します。一日4時間の勤務中に市立図書館へ行くことなど到底できません。時間外勤務を認めていただくような措置をお願いしたいです。	学校貸出については、「学校司書連絡会の中で、図書館との連携を図り授業で使用する資料の団体貸出を調整するなど」としていることから、その運用については、学校司書連絡会で検討してまいります。	なし	P14
11	4	第2章 3-(3) 図書館施設見学などの実施、図書館との連携 学校貸出の運用	市立図書館との連携は、図書館見学はありがたい事業です。学習活動の充実にもつながることとして、他に団体貸出(学校)ですが、単学級なら2週間の貸出期間でもかまいません。しかし、2学級あると、どうしても延長手続きをしなければなりません。学年の学級数に応じてご配慮いただきたいです。	学校貸出については、「学校司書連絡会の中で、図書館との連携を図り授業で使用する資料の団体貸出を調整するなど」としていることから、その運用については、学校司書連絡会で検討してまいります。	なし	P14
12	5	第2章 3-(3) 図書館施設見学などの実施、図書館との連携 学校貸出の運用	学校司書連絡会は「毎月開催」とありますが、勤務時間数が少ない上、毎月開催できないのが現状です。	学校司書連絡会の開催は、現在、隔月開催となっておりますので、「毎月開催」ではなく「定期的に開催」に変更します。	あり	P14
13	6	第2章 3-(1) 学校図書館の環境整備 学校司書の配置	学校再編されても司書2人(フルタイム)では足りないと思います。プラス時短勤務(パート)の雇用もお願いしたいです。	計画では「開校準備段階から学校図書館が効率的・効果的に運営できるよう検討していきます。」としていますので、教育委員会としてご意見の内容も含め検討してまいります。	なし	P13
14	7	第2章 4-(2) ボランティアの育成 ボランティアの世代交代	図書ボランティアについて若返りという言葉が何か所かにでてくるが、実際、とても難しい。何ができるか、模索中です。	以前より大きな課題と認識しております。図書館関係機関の協働により、何ができるかを考えてまいりますので、御協力をお願いします。	なし	P15
15	8	第2章 4-(2) ボランティアの育成 ボランティアへの寄り添い	図書ボランティアと図書館は、切っても切れない関係、今後も寄り添っていただきたい	図書館だけではなく、図書に関係する機関がボランティアに寄り添うことは大切であると考えております。なお、計画では「図書館など図書館関係機関が協力して講習会や研修会を充実させます。」とありますが、この「図書館関係機関」を「図書館関係機関」に変更し広く対応できるようにします。	あり	P14
16	1	第2章 4-(1) ボランティアの育成 各ボランティア団体による活動継続	地域の民話・昔話は必要です。郷土愛や自立して牧之原市を踏みしめこれから地域発展するために。	伝統文化の継承や地域への愛着を醸成することは大切であり、読書から得られる大きな効果でもあると考えております。 計画の中の図書ボランティアの活動の中に、民話や昔ばなしを取り入れる旨の記載を追加します。	あり	P14
17	2	第2章 3-(1) 学校図書館の環境整備 学校図書館の常時開館	学校図書館の常時開館をお願いします。保健室登校のように図書館登校も認めてほしいです。図書館の人員費の課題等あるかもしれないが、0番台から900番台まで揃っている学校図書館から得るものは膨大です。それらが目に見えぬものであるからこそ。	学校図書館の機能拡充による不登校対策であるので、学校再編を見据えた上、ご意見の内容は教育委員会として検討してまいります。 学校は、これまでも教室に入ることが難しい児童生徒が図書館で学習することを推奨してきましたが、更に図書館が学習の場となるよう努めてまいります。	なし	P13

No.	意見番号	項目	意見	回答	計画への反映	関連ページ
18	5	3 第1章 3-(1) ありたい姿(将来像)	「夢さがし・豊かな自由読書」という事で、途中で止めても、気軽にいつ読んでも良い、どのような本でもよいという事ですが、例をあげて保護者の方に分かりやすく記述した文章もあった方がよいと思います。 例えば子どもたちや保護者に伝えるため学校図書館協議会の「よい絵本」や静岡県「本とともだち」を参考として案内してもよいと思います。公立図書館や各学校図書館の本の案内はもちろんです。 そうすれば大人も絵本や児童書に興味を持ちおやこ読書や家読や大人の読書活動につながると思います。	計画策定後、広報紙やチラシなどでわかりやすい表現で周知いたします。また、計画では「保護者や子どもに届く、伝わる情報伝達」として、興味を持ってもらう工夫をする旨の記載をしています。 ご提案をいただいた手法も含め、今後の子ども読書活動の中で検討してまいります。	なし	P5 P17
19	4	第3章 3-(5) 高校生の読書意識に関する調査	3章の資料には漫画やデジタル版や雑誌等が掲載されていますが、ネットサーフィンで目に入った学術論文も？文字が並んで意見や思想が内包されてれば読書？とまじめな保護者の悩みは減るのではないのでしょうか。	ネットサーフィン中の学術論文を読書にカウントするかは議論の余地がありますが、目的をもって論文を精読することは非常に良いことであると考え、アンケートにおいては「その他」の項目を設けております。 計画では「自由読書」を将来像に掲げ、「読書とはこうあるべき」と固定されないよう柔軟に捉えています。	なし	P39
20	5	第2章 5-(4) 保護者や子どもたちに届く、伝わる情報発信 図書館イベントの広報	図書館で開催するイベントやおはなし会や講座情報を園だけでなく、学校の保護者にも提供していただきたいです。お忙しい先生方のお手間は取らせたくはありませんが…。	現在、学校司書連絡会において、図書館イベントの広報依頼を協議しています。計画の「子育て施設の協力を得て掲示・配布を行います」を「子育て施設や学校図書館の協力得て掲示・配布を行います」と変更します。	あり	P17
21	6	全体	牧之原市民が3つの市立図書館と各学校図書館を利用し親しみつくすことが子ども読書活動推進計画にとって最善と考えます。	ご意見ありがとうございます。そのようになるよう事業を推進いたします。	なし	-
22	1	第2章 3-(2) 読書活動及び学校図書館を活用した学習活動の充実 学校図書館の資料の充実	学校図書室で読みたい本にリクエストができ、リクエストした本が学校の図書室に購入されたり、いこつとやいろはを通して追加されると良い。	いこつとやいろ葉、移動図書館、学校図書館それぞれで所蔵していない本のリクエストができます。ぜひ、ご利用ください。 計画では「子どものニーズに合った学校図書館」としています。資料の選書の際にはリクエストなども参考にまいります。	なし	P13
23	2	第2章 5-(1) 利用しやすく居心地の良い図書館 利用しやすい図書館運営	放課後に図書館に寄っても良いことにしてほしい。	読書機会の拡充になりますが学校ごとのルールとなりますので、PTAの意見を聞きながら学校ごとに検討をいたします。	なし	P16
24	3	第2章 4-(5) 事業推進における子どもの関わり 子どもの事業参加	中学生が行きたいと思う企画がない。中高生の意見を聞いてほしい。	子どものニーズ把握は重要であると考えております。計画では「中高生など子どもが読書活動の推進に係る事業に参加できるよう努めます」としております。	なし	P15
25	6	4 第2章 5-(1) 利用しやすく居心地の良い図書館 学習スペースの活用	いろはに学習スペースがもっと欲しい。長期休みは空いている会議室などを学習室として利用できるようにしてほしい。	いろ葉の学習スペースは31席あり、いこつと23席より多く設置しています。また現在、学習席の仕切りとしてアクリルパネルの設置し、パーソナルスペースの確保ができるよう検討しております。会議室の活用は、図書館の学習室の利用状況を見ながら検討します。	なし	P16

No.	意見番号	項目	意見	回答	計画への反映	関連ページ
26	5	第2章 5-(1) 利用しやすく居心地の良い図書館 利用しやすい図書館運営	榛原側にも、いこつのような気軽に集まれる場所が欲しい。	計画では「図書館が、子どもの学びの場や第三の居場所(サードプレイス)となるよう社会の要請に応じていきます。」としております。	なし	P15
27	6	第2章 5-(1) 利用しやすく居心地の良い図書館 利用しやすい図書館運営	勝間田からいこつとやいろ葉は遠いので、公共交通機関で図書館に行けるようにしてほしい。	地理的課題の解決方法としての公共交通機関の整備については、子ども読書活動推進計画では対応できないので、総合計画など市全体の公共交通の在り方の中で議論をさせていただきます。移動図書館については継続していく方針です。	なし	P16
28	7	第2章 3-(2) 読書活動及び学校図書館を活用した学習活動の充実 学校図書館の資料の充実	子どもに本を読んでほしいなら漫画も含めてよいと思う。学校の図書室にも漫画を置いてほしい。	本計画では「自由読書」を謳っており、読書を強制するものではありません。学校図書館には、その目的と選書基準があります。それらに合致すれば、漫画も読書の入り口として有効と考えます。計画では「子どものニーズに合った学校図書館」としていますので、資料の選書の際には考慮してまいります。	なし	P13
29	8	第2章 3-(1) 学校図書館の環境整備 学校図書館の常時開館	中学校の図書室は行きにくい。中学校の図書室は騒がしい。中学校は図書室に行く時間がない。	学校図書館の環境整備については、実情を踏まえ改善してまいります。また、学校再編計画による義務教育学校では、これら課題が解決できるよう設計段階から検討してまいります。	なし	P13
30	1	第1章 3-(1) ありたい姿(将来像)	ありたい姿である「夢さがし、豊かな自由読書」の「夢さがし」という言葉はとてもワクワクする言葉で図書館が未来の夢を探せる場所として子供たちの心のよりどころとしてそこにあることが出来る計画であることがうれしいです。	本計画の趣旨が伝わるよう積極的に広報してまいります。	なし	P5
31	2	第2章 5-(1) 利用しやすく居心地の良い図書館 地域格差を踏まえたアクセスビリティの向上	いこつというのはの整備により、読書環境は大きく充実したと感じる一方で、地理的条件により図書館利用が難しい地区の子供が存在する。放課後に図書館に行くことが出来る地区の児童とできない児童の利用率の差なども調べてほしい。地区公民館への図書コーナーや放課後児童クラブへの図書出張サービス、学校や地域拠点での予約受け取り機能、デジタル予約+地域受け取り拠点の整備など、どこに住んでいても本に出合える親しめる仕組みを計画の重点として明記することを提案する。移動図書館の利用について子どもたちにアイデアをもらう。	ご提案、ありがとうございます。 地理的条件による図書館利用は、子どもだけではなく高齢者など大人も含めた課題であるため、すべての利用者に読書機会が得られる仕組みについては図書館基本計画の中で議論してまいります。 移動図書館については、記載がなかったため追記します。	あり	P16
32	3	第1章 3-(2) 基本的方針 大人が読書する姿を見せる仕組みづくり	子供の読書習慣形成には家庭や地域の大人の姿が大きく影響する。そこで牧之原市健康マイレージ事業のように「読書マイレージ(仮称)」を導入したらどうか。図書館利用や読書記録、イベント参加、読み聞かせ活動などをポイント化し、世代を超えた読書参加や親子読書の促進、市民文化活動参加促進につなげることが期待できる。子ども読書推進計画を子供だけの施策にせず、市民文化施策として位置付ける視点が重要と考える。	本計画の策定にあたって大人も含めた社会全体の読書の在り方を課題として捉えています。したがって、図書館という枠に納めず社会教育の視点からも読書推進する必要があり、利用方針に記載したところですが、ご提案を頂いた具体的な手法などは、計画に基づく事業推進の参考にさせていただきます。	なし	P6 P9

No.	意見番号	項目	意見	回答	計画への反映	関連ページ
33	4	第2章 4-(1) ボランティアの育成 図書館を「文化と歴史の拠点」とする視点の強化	<p>図書館は単なる本の貸し出し施設ではなく、音楽、芸術、学問、対話、歴史、探究活動への文化や学びの入口となる場として様々な企画をしてほしい。例えば、コンサートや美術展、演劇などの公演を図書館で体験できるなど。絵本の原画展や、作家さんのお話を聞く機会などが身近で体験できると本を読みたいという気持ちになる。</p> <p>民話を知らない保育士がいるというアンケートがあった。保育園の読み聞かせで「ほらが池」や「波っこ」市民が制作した紙芝居やカルタなどを活用し、子供たちが地域の言い伝えや民話、地域の歴史や地名の由来を知る機会を明記してほしい。</p> <p>子どもたちが民話や歴史を通して地域を知ること、昔からの人々の暮らしが続いてきたからこそ今の私たちがいること、そして私たちが未来の子どもたちにこの地域を手渡していくことで未来を創っていくという思いをはぐくむことはできないか。</p> <p>民話だけではなく、人々の暮らしも牧之原記憶遺産として集め残していく「牧之原記憶遺産プロジェクト」を提案したい。牧之原に暮らしてきた人々の記憶を集め地域の未来へ残す。夏休みに記憶遺産を集める宿題を市内小中学校で実施など出来るのではないか。自分たちが集めた記憶(写真や映像なども含む)が記録として残されることで、郷土理解が深まり、地域の偉人や産業、歴史書などにも興味がわき、身近な物語(ストーリー)が読書推進につながる。</p>	<p>伝統文化の継承や地域への愛着を醸成することは大切であり、読書から得られる大きな効果でもありと考えております。</p> <p>計画の中の図書ボランティアの活動の中に、民話や昔ばなしを取り入れる旨の記載を追加します。</p> <p>ご提案を頂いた具体的な手法などは、計画に基づく事業推進の参考にさせていただきます。</p>	あり	P14
34	5	第2章 5-(5) 関係機関との連携 学校図書館と市立図書館の連携	<p>「図書館で調べる授業」起郷家教育や探求授業のテーマ決めや深堀の際にタブレット端末での検索だけではなく図書館を活用して学ぶこと。「検索する」から「調べて考える」へ移行するために市立図書館の専門性を教育現場で活用してほしい。探求深堀りコーナーなど、学校教育のカリキュラムに沿った図書コーナーづくりを企画してほしい。図書館探求デーを企画し、図書館司書が探求学習をサポートする日を設け学校と連携し活用してもらおう。</p>	<p>計画では、学校司書連絡会に図書館司書が参加し、情報提供や事業連携を協議することとなっています。</p> <p>ご提案を頂いた具体的な手法などは、計画に基づく事業推進の参考にさせていただきます。</p>	なし	P18
35	6	第2章 5-(1) 利用しやすく居心地の良い図書館 学習スペースの活用	<p>いろはやいこつとに今までなかった学習スペースができたことで多くの学生が利用しているが学習スペースは十分ではない。集中して学習したい中高生や受験期の利用者から「静かな学習空間」を求める声もある。いろは側はスペースに限りがあり思うように勉強できないという話を聞くので、使用していない会議室などを学習スペースとして利用できるようにしてほしい。</p>	<p>いろ葉の学習スペースは31席あり、いこつと23席より多く設置しています。また現在、学習席の仕切りとしてアクリルパネルの設置し、パーソナルスペースの確保ができるよう検討しております。会議室の活用は、図書館の学習室の利用状況を見ながら検討します。</p>	なし	P16
36	7	第2章 4-(5) 事業推進における子どもの関わり 子どもの事業参加	<p>今後の子ども読書推進計画に子供の意見が反映されるような仕組みづくり各学校の図書委員と図書館職員の意見交換会の実施。図書館利用やイベントのアイデア集めのワークショップなど。子どもの読書のことは子どもが考える機会を設けてほしい。こども図書館会議の開催 こども図書館長一日体験など。</p>	<p>子どものニーズ把握は重要であると考えております。計画では「中高生など子どもが読書活動の推進に係る事業に参加できるよう努めます」としております。</p> <p>ご提案を頂いた具体的な手法などは、計画に基づく事業推進の参考にさせていただきます。</p>	なし	P15
37	8	第1章 3-(2)-オ 基本的方針 社会教育の視点	<p>まきのはら塾、家庭教育学級、介護予防事業、高齢者サロン、生涯学習セミナーなど様々な団体に潜在的に眠る読み聞かせプレイヤーを発掘し読み聞かせボランティアにつなげる仕掛けができないか？</p> <p>本の読み聞かせマラソンの実施 読み聞かせデビュー講座(プレママパパや祖父祖母) 本の読みあい会などなど。</p>	<p>本計画の策定にあたって大人も含めた社会全体の読書の在り方を課題として捉えています。したがって、図書館という枠に納めず社会教育の視点からも読書推進する必要があり、利用方針に記載したところ です。</p> <p>ご提案を頂いた具体的な手法などは、計画に基づく事業推進の参考にさせていただきます。</p>	なし	P9

No.	意見番号	項目	意見	回答	計画への反映	関連ページ
38	1	第1章 3-(1) ありたい姿(将来像)	ありたい姿として、情操を育むということも大切かと思うのですがいかがでしょうか。「自由読書」が行われるための環境づくり、大賛成です。	情操を育むことは大切であると考えます。そのために読書に触れ、読書が楽しい・面白いと気付くような機会を与え、その結果、最終目的としてなにか夢を見つけたり課題を解決したりできれば良いなという将来像としています。	なし	P5
39	2	第1章 3-(2)-イ 基本的方針 読書が楽しい、面白いという気づき	「最初から本が好きな子どもはいません」と、何度かでてきますが、そうとは言い切れないのではないかと思います。興味をもつことは子どもには本能的にあるのではないのでしょうか、それを無視することが問題だと感じます。家庭での読み聞かせは、子どもと触れ合う時間にとどまらず、親として幸せを感じる時でもあります。親子共に豊かな時間を持ってもらえたらと思います。	未知の世界に生まれた赤ちゃんは、見えるもの、聞こえるもの、触れるものなどすべてが新しい経験です。そのような経験の中で読書については多くが家庭で語り掛けたり絵本を見せたり、簡単な読み聞かせをしたりする体験から、物や言語、色彩などを認知し、その楽しさ面白さを感じていくものとされています。子どもたちにとって家庭での初めての読書経験が後の本が好きになるきっかけになりますので、本計画ではそのような機会が創出されるよう様々な取り組みを記載しています。家庭での読書体験が親子の豊かな時間になり、大きな幸せに繋がればと期待しています。	なし	P7 P11
40	3	第2章 3-(2) 読書活動及び学校図書館を活用した学習活動の充実 中高生の読書活動推進	相良中学の朝読書の時間が無くなりました。いろいろな事情があるそうですが、大切な10分間でしたので残念でなりません。その時間でしか読書をしない子どももいました。読む本を探して図書館に行ったり、友だちから借りたりということが減るのは残念です。また、中学になると、学校図書館に行く時間の無い子どもが多いです。中学での(高校でも)読書活動の推進にもっと働きかける内容に期待します。	本計画の策定後は、計画に基づき学校での読書活動の推進をしてまいります。計画にも記載どおり、これまで行ってきた事業を継続することはもとより、関係機関との連携により更なる事業推進をすることとなっています。中高生のアンケート結果にも表れていますが、忙しくて読書の時間がないという子どもも一定数います。変化が激しく選択肢の多い時代の中で、事業推進により読書が選択の一つになるよう進めてまいります。高校については、静岡子ども読書活動推進計画(第4次)に基づいて推進されますが、アンケート結果も踏まえ、市内高校には本計画の周知をしてまいります。	なし	P13
41	4	第3章 3 アンケート結果	アンケートや、保護者・各園・学校司書との意見交換がとても大切なことがうかがえました。顔を合わせて声を聞くのは、手間もかかりますが続けていっていただきたいです。	今回、計画策定に当たり行ったアンケートなどにより、多くの気づきがありました。すでに対応しているものもありますが、今後も関係者との意見交換などを通じて情報を共有し、ニーズを把握してまいります。	なし	P31～